海底石油生産システムの開発支援に取り組む

海底石油生産システム研究開発 海洋総合実験支援工事

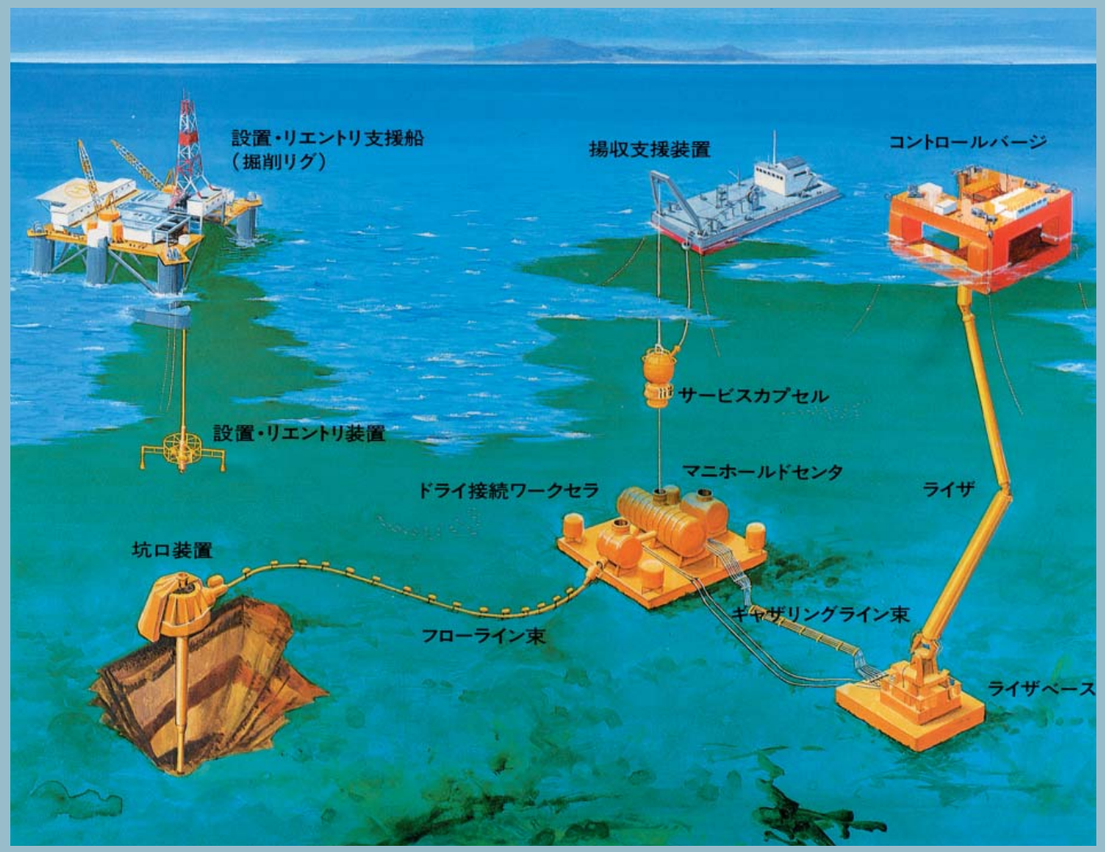
1978(昭和53)年、通商産業省工業技術院の大型プロジェクト「海底石油生産システムの研究開発」が発足。石油業界、製鉄、造船、重機および電気メーカーなど18社で構成された「技術研究組合海底石油生産システム研究所」が設立された。トータルシステム、坑口システム、パイプラインシステム、マニホールドシステム、およびライザ貯油システムの研究開発が進められ、これの大水深用海底石油生産システムの完成を目的として、各サブシステムの機能、操業技術および設置技術の確証を得るため、実際の海洋において「海洋総合実験」が行われた。当工事は「昭和58年度海底石油生産システム研究開発海洋総合実験支援工事共同企業体」(略称、SPS共同企業体)が受注し実験工事を行ったもので、当社はその共同企業体代表会社として総合指揮をすることとなった。実験工事期間は1983(昭和58)年6月20日から翌年3月31日まで。終了後、実験で挙げた成果に対して技術研究組合海底石油生産システム研究所より感謝状を拝受した。

海底石油生産システム研究開発の支援に着手

1983(昭和58)年、海底石油生産システムの研究開発海洋総合実験支援工事にともない、支援工事共同企業体工事事務所を呉支店内に開設した。

[期間] 1983年6月20日～1984年3月31日
[場所] ①陸上実験
広島県安芸郡江田島町小用三ッ石
②海洋総合実験
広島県安芸郡倉橋町横島および黒島西側沖
③長管製作・組立
広島県安芸郡倉橋町井目木
④陸上基地
広島県安芸郡倉橋町井目木　海洋実験本部
同　SPS共同企業体倉橋工事事務所

海洋総合実験の全体概念図



マニホールドセンタ沈設工事(位置決めは電波測距儀による)

サービスカプセル(水中エレベーター)PTC

ライザ設置工事